

令和5年度 学校経営計画書

学校番号	8	学校名	静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校	校長名	青木 暁乃
------	---	-----	--------------------	-----	-------

1 目指す学校像

(1) 教育目標

共に育てる 自立と輝き ～子どもの能力を最大限伸ばし、個々のよりよい自立と輝きを支援する～

- ・学校、保護者、地域の方々と共に、さらに児童生徒同士、児童生徒が自分自身を、育て、成長すること
- ・児童生徒一人一人がそれぞれのステージでできることを増やしていくこと、人や社会との関わりが広がること
- ・自分の良いところを伸ばし、他者から認められ、自信をもって生きる姿、生きる力を高めること

(2) 目標具現化の柱

- ア **人権尊重の意識に基づいた、児童生徒が安全に安心して学習できる学校** (安全)
- イ **深い児童生徒理解に基づいた、キャリアを踏まえた指導及び支援ができる学校** (専門)
- ウ **地域や関係諸機関等との強いつながりに基づいた、共生社会を目指す学校** (連携)
- エ **チームとしてのやりがいに基づいた、効率よく迅速に、業務を遂行できる学校** (チーム)

2 本年度の取組 (重点目標はゴシック体で記載)

	取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標	担当部署
安全	地域での安全につながる防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ハンドブックを活用した、積み上げによる防災学習への取り組み ・隣接校やPTA など、関係機関との合同での防災訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、発災時の具体的な行動を理解している。 ・職員が、発災・緊急時にとるべき行動を把握している。 	保体・防災学部・学年
	誰もが安心して通える学校	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳や保健指導における、年間指導計画の整備と実践 ・掲示物や共有データ、教材・教具や引継ぎ用文書などの整理 ・職員や生徒にとって、分かりやすく居心地の良い環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員や生徒が、互いの良さや苦手を認め、寄り添う姿勢や称賛の言葉を用いて関わっている。 ・校内の情報や物品がシンプルに機能的に整理されている。 	学部・学年教科部会 保体・防災教務・自立生徒指導
専門	多面的な生徒理解と生徒自身の自己理解への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を超えた複数の目での実態把握や専門家からの助言の活用 ・生徒が学びの価値や成長を実感できる授業研究の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習をはじめとする学習場面において、生徒が主体となって活躍している。 	研修 進路・地域作業班 学部・学年
	個に応じた適切な進路決定	<ul style="list-style-type: none"> ・2, 3年次を中心に、各学年の段階に応じた、職場実習や進路指導の充実 ・段階的な進路決定のための保護者への情報提供と情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、勤労観や職業適性について理解を進めている。 ・保護者が、進路選択や職場実習の価値を重視し、協力している。 	
連携	関係諸機関とのつながりを大切にしたい切れ目のない支援と指導	<ul style="list-style-type: none"> ・出身中学校、居住地区行政、福祉、医療、実習先、進路先など関係機関との連携 ・保護者と早期に信頼関係を築くことでの、1年次における生活指導と生徒指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が、生徒や保護者のニーズを把握し、必要に応じて面談や関係者会議を実施している。 ・保護者が、生活安定や地域安全の価値を重視し、支援している。 	進路・地域生徒指導
	生徒の自立と輝きに向けた共生・共育	<ul style="list-style-type: none"> ・田農との共同授業、交流授業などの実践とその成果の情報発信 ・学校運営協議会による学校応援体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、田方農業高校との共同学習や行事をはじめ、外部人材との交流学習に積極的に参加している。 ・学校運営協議会から具体的な支援を得ている。 	教務・自立
チーム	働きがいのある職場	<ul style="list-style-type: none"> ・事務執行状況の情報共有 ・職場環境改善への迅速な対応 ・業務の効率化を加味したカリキュラムマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が、本校事務室からの連絡を適時に確認し、連携している。 ・職員が、時数管理や行事計画の工夫などにより、生徒と向き合う時間や教材研究の時間、情報共有の時間を確保している。 	学部・学年 作業班 事務担当